

五百弟子品三箇の大事

第一 衣裏えりの事

御義口伝に云はく、此の品には無価むげの宝珠えりを衣裏かに繫かく事を説くなり。所詮日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は、一乗妙法ちほうの智宝ちほうを信受するなり。信心を以て衣裏にかくと云ふなり。

第二 醉酒すいしゅ而臥にがの事

御義口伝に云はく、酒とは無明なり。無明は謗法なり。臥とは謗法の家に生まるゝ事なり。三千塵点の当初に悪縁の酒を呑みて五道六道に酔めくひ廻りて今謗法の家に臥したり。酔とは不信なり、覚とは信なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る時無明の酒醒めたり。又云はく、酒に重々之有り。権教は酒、法華経は醒めたり。本迹相對する時迹門は酒なり、始覚の故なり。本門は醒めたり、本覚の故なり。又本迹二門は酒なり。南無妙法蓮華経は醒めたり。酒と醒むると相離れざるなり。酒は無明なり、醒むるは法性なり。法は酒なり、妙は醒めたり。妙法と唱ふれば無明法性体一なり。止の一に云はく「無明塵勞即ち是菩提なり」と。

第三 身心へんかん遍ぎ歡喜ぎの事

御義口伝に云はく、身とは生死しょうじ即涅槃そくねはんなり。心とは煩惱ぼんのう即菩提そくぼだいなり、遍とは十界同時なり、歡喜とは法界同時の歡喜なり。此の歡喜の内には三世諸仏の歡喜納まるなり。今日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉れば、我則歡喜とて釈尊歡喜し玉ふなり。歡喜とは善惡共に歡喜するなり。十界同時なり。深く之を思ふべし云云。